

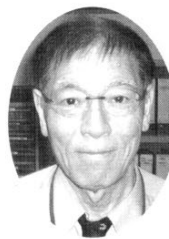
2008

労災かわらばん

— 初春号 —

Vol.23 発行日／平成20年3月31日 編集／釧路労災病院新聞局

★明るい未来を信じて



院長 小柳 知彦

医師不足から地域医療崩壊が全国各地で問題となっています。OECD加盟国の人口一、〇〇〇人あたり医師数が平均三・一人なのに対し日本は二・〇と絶対数が不足しています。北海道は全国平均の二・〇ですが上川中部三・〇、札幌二・七に対し、釧路一・六、根室一・〇と医師が道央圏に偏在しています。この医師不足・偏在が地域医療に及ぼす影響は、寒冷・過疎・広大・交通不便の道東圏では特に顕著で、昨年は小児科・産婦人科の釧路赤十字病院への集約化があり、それに対して労災病院が立てた再生計画をこの欄で述べさせてもらいました。

ほぼ計画通り再生の道を歩んできた労災病院ですが、医師不足の影響は今年は更に循環器内科へ波及することとなりました。市立釧路病院へ札幌医科大学より派遣されていた循環器内科医師が（定かな理由は明らかにされませんでしたが）、全員引き上げられることとなり、釧路市が北海道大学循環器内科医局へ相談、大学はこれまで医師会病院と労災病院へ派遣していた医師を札幌医科大学が去った後の市立釧路病院へ集約化することを提案してきました。これまで

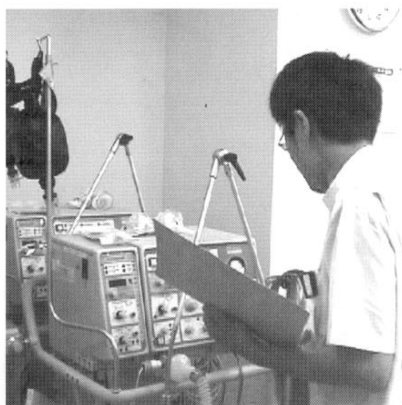
も真摯に医療に取り組んできたとの自負もあり、開院以来最大とも思われる昨年の苦境にも、これをバネに職員・スタッフが一丸となつて一層の努力を重ねることを誓い、再生途上にある労災病院ですが、これは度重なる大きなブローでした。市立釧路病院に端を発した医師引き上げ問題を、労災病院の医師の移動で解決するということは、真面目に医療を担っている者が損をする気すらする不条理なことでもあり、素直に聞き入れられるものではありませんでした。

既に新聞報道をされたところで、もあり詳細は省きますが、その後、釧路市・市立釧路病院・労災病院の三者を交えたねばり強い協議の結果労災病院の循環器診療は市立病院からの派遣医によって従来通り継続されることとなり、またこのことは医師派遣元の北海道大学循環器内科医局も認めたことで解決することとなったのは何よりでした。合併症として循環器疾患を患っている各診療科の患者さん達もこれで安心して従来通り入院治療を受けられることになったわけです。

苦しい時こそ明るい未来があることを信ずる力が、今こそ必要です。労災病院職員一同は、これまでに以上心を一つにして地域の皆さんの医療・健康・福祉のために頑張りますので、よろしく願います。

●臨床工学技士の紹介●

臨床工学部 河野 俊介



臨床工学技士とは、医療従事者であり、国家資格です。そのほとんどが病院で働いており、また一部には医療機器関連の会社に勤めている人もいます。臨床工学技士とは、いったい何をする人なのか簡単に言いますと、病院にある医療機器を扱う仕事をしています。病院には色々な医療機器が沢山あります。治療や手術などには様々な医療機器を使いますが、今まではそれらを操作する職種の人がいませんでした。つまり誰でもできたということです。実際には、その医療機器の会社の人や、看護師さんやドクターを指します。しかし医療機器が多様化になってきた近年、それらの医療機器を扱う専門家が必要となり臨床工学技士という職種が誕生しました。1987年にできまして、2008年ではようやく21年経った比較的新しい資格です。臨床工学技士の定義は次のようになっていきます。『医師の指示のもとに、生命維持管理装置の操作および、保守点検を行うこと』



とを業とする者をいう。』ということで、生命維持管理装置とは、具体的には人工透析装置（腎不全の患者さんを治療する装置）、人工心肺装置（心臓手術の時に使う装置）、人工呼吸器（呼吸の代わりを行う装置）、血液浄化装置（特定の病気の時に使う装置）などを指します。

臨床工学技士はこれらの装置を操作・保守点検することができ、それにより業務範囲は多岐におよびます。病院内にある医療機器のほぼすべてに関わるということでも過言ではありません。その中でも、生命に直結する装置を扱うことがメインの仕事となり、まさに医療機器の専門職と言える職種です。ちなみに当院では4月から7人体制になり、内視鏡検査や高気圧酸素療法などの業務も行っています。今後さらなる医療機器の進歩にともない、皆様と接する機会が増えてくるのではと予想されます。その際にはどうぞ宜しくお願い致します。